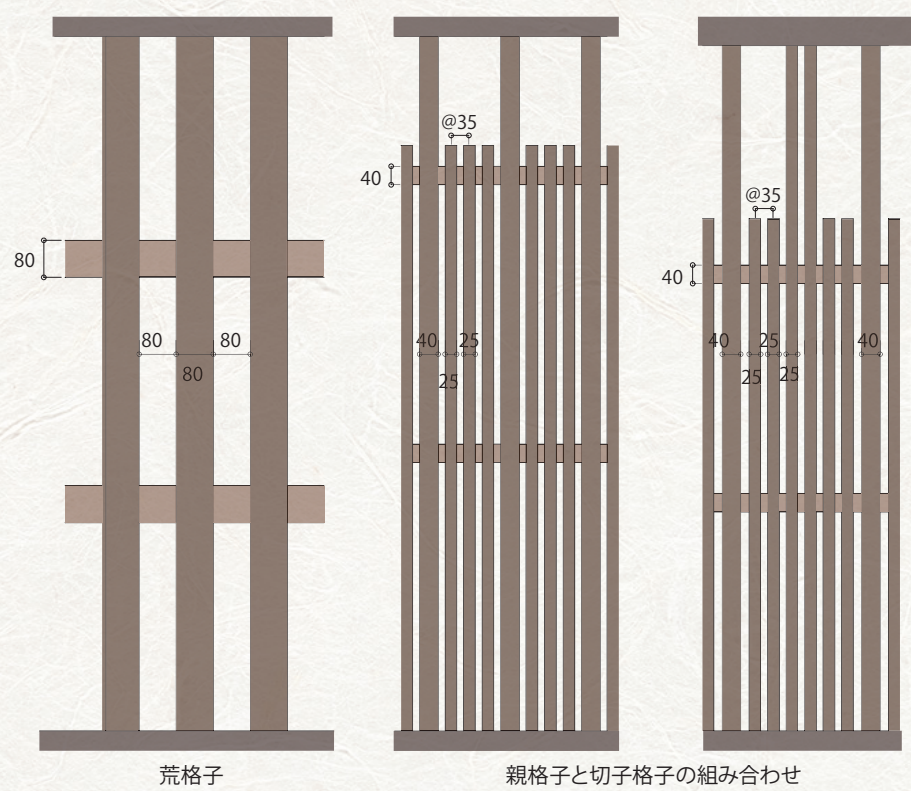


【龍野の細部デザイン】

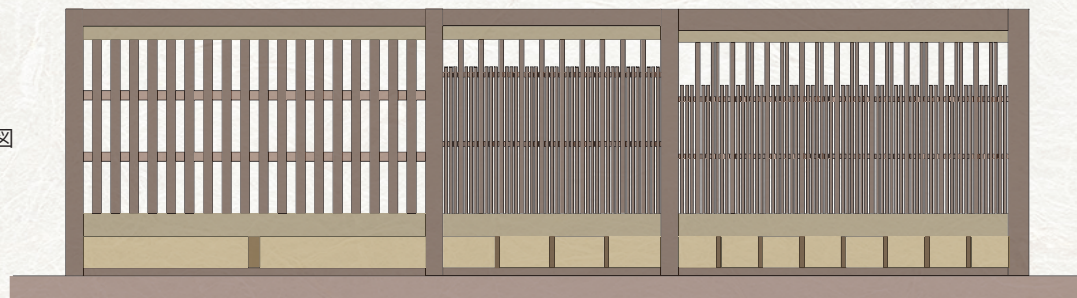
格子のデザイン：木製格子

1階の開口部には、荒格子と2つの異なる組み合わせの格子が見られます。親格子1本に切子格子1本の場合は、「呉服屋格子」と言い、2本の場合は、「糸屋格子」と言うように職業によって格子のデザインが決まっている京都とは違い、龍野地区では、職業別ではなく、多彩な格子デザインがあちこちに見られます。

格子詳細図



正面図



格子のデザイン：金属製格子

龍野の2階開口部の特徴的なもので、漆喰枠の開口部に金属製の格子がはまっています。第二次世界大戦中の金属供出等により、木製格子に替わっている町家も見られますが、江戸期から昭和初期にかけての町家では鉄製の丸棒が使用されています。通風や採光を確保しながら、防犯対策のためであったと思われます。

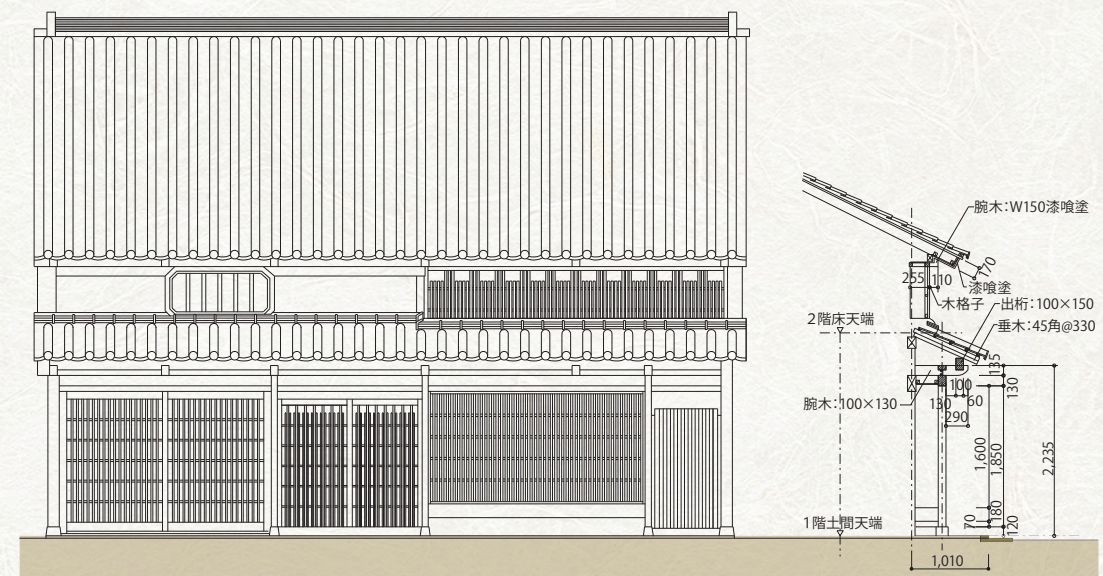
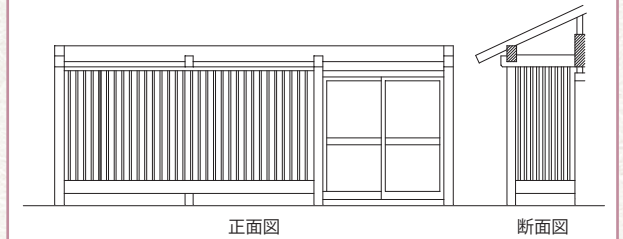


【具体的な建築例】

野村家 (上川原) Aタイプ

- ◆当住宅は、鬼瓦に天保6(1835)年の銘があり、この年代に建築されたことが判明しています。
- ◆2階は、近年改造されていて、特に中程から裏方は、2階の高さを高くするために屋根の構造を作り替えています。古い牛梁や梁などから推定すると、元の形の軒高は表側と同じくらいで、和小屋を組んでいたと推定されます。
- ◆表側は、登り梁を用いたツシ2階であり、当初のままの形が残っています。
- ◆外観は、格子窓で構成されたAタイプで、特に2階の格子は親格子が3本、切子格子が4本という組み合わせとなっており、龍野の多様な格子デザインのひとつとなっています。

Aタイプ ◆出格子を持つ形式のもの



立面図

断面図

◆縮尺1:100



【ツシ2階(中2階ともいう。)]

江戸時代から明治時代にかけて建てられた古い様式です。当時は「町人が武士を見下ろすことは許されない」という理由から2階建は禁じられていましたが、2階建であることを隠した低い天井の2階が設けられ、物置や使用人の寝泊りに使われていました。

